

日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト

ザブハン県・ドントゴビ県・ドルノゴビ県へのテキスト配布

2014年5月に柔道整復術テキストが完成し、モンゴル国北西のザブハン県ソム病院および南東に位置するドントゴビ県およびドルノゴビ県の保健所を訪問してテキスト配布を依頼した。

<ザブハン県>

派遣者：本間琢英（国際部）、根來信也（国際部）

指導者候補：オユンバートル・ダリンチュルン

日 程：

3月11日

9:30 ザブハン県シリステーソム・ソム病院到着

テキスト配布・プロジェクト説明等（テムチグスレン保健所長）

10:30 ソム病院視察

ザブハン県にはバグ医師へ66冊、ソム病院へ3冊のテキスト配布した。テムチグスレン保健所長は、柔道整復術に対して理解されており、講習会の開催の希望もされていた。ソム病院には、本プロジェクトで講義を受講した医師が勤務中であった。



写真1 ザブハン県シリステーソム・ソム病院にて



写真2 ドントゴビ県保健所にて

<ゴントゴビ県・ドルノゴビ県>

派遣者：金井英樹（国際部）、矢口亜希（国際部）

指導者候補：オユンバートル・ダリンチュルン

日 程：

3月16日

13:00 ドントゴビ県保健所到着

14:00 テキスト配布・プロジェクト説明等（エンヒサイハン保健所長、ウッジーバヤル普及員）

16:00 ドントゴビ サインツァガン ソム病院 ドントゴビ県県立病院視察

3月17日

15:00 ドルノゴビ県保健所到着

テキスト配布・プロジェクト説明等（バトツェツェグ副保健所長とツォルモンゲレル普及員）

16:00 モンゴル国立医療科学大学附属ドルノゴビ分校

テキスト配布・プロジェクト説明等（ツァブシル学長）

17:00 ドントゴビ県立病院視察

3月18日

9:30 ズーンバヤンソム・ソム間病院視察

19:00 ウランバートル到着

ゴントゴビ保健所には 66 冊のテキストを配布した。保健所長からはテキストブックを使っでの医療関係者間での定期的な勉強会の開催や卒後研修中の医師たちにプロジェクトの講義への参加を促し、保存的治療技術を身につけてもらいたいとの意見を頂戴した。県立病院外来診療所には以前我々が講義を行った UB のバグ医師科の卒業生が勤務しており、日常診療で骨折患者に柔道整復術を用いて経過観察し、日常生活に支障を来さないレベルまで治療出来ているとのことであった。入院外科病棟に於いては、交通外傷の入院患者が多くみられた。外科医師に柔道整復術について尋ねると、以前の講習会についてご存知であり、次回の講習にはぜひ参加したいと話された。



写真3 ドルノゴビ保健所にて



写真4 モンゴル国立医療科学大学ドルノゴビ分校にて

ドルノゴビ県保健所には 88 冊のテキストを配布した。副所長からは本県で今後も講義を継続して行って欲しいとの要望があったが、プロジェクトが来年終了する旨と、普及員や大学関係者、指導者候補生を通じて定期的な柔道整復術の勉強会を継続的に開催することにより、啓発していただきたいと伝えた。県立サンシャング病院では、以前健康科学大学で柔道整復術の講義を受けた女性医師と4年前に同県で開催された講習会に参加した看護師が勤務しており、彼女らが講義を受けたことで院内の同僚医師にも柔道整復術について伝わっていた。この病院では骨折に対して徒手整復によっても治療しており、医師や看護師たちは次回の講義への参加を希望されていた。モンゴル国立医療科学大学附属ドルノゴビ分校には 25 冊のテキストを配布した。ツァブシル学長と面談ができ、外科の専門である学長は外傷後の変形や後遺症が多い理由に、外傷専門の外科医に徒手整復の技術が未熟なことや、手術に依存し術後経過時に発生する感染症や、長期固定、長期臥床による関節拘縮や変形治療の問題にあげ、柔道整復術の必要性を常々感じていたと話された。また大学には附属病院が設立され、現在卒後研修が行われているが、この施設に柔道整復師の研修機関を作り、大学内にも柔道整復コースを作って学生を育成したいという構想をお持ちであり、学長自らも要望書を出したいと話された。また、次回の講義では同校の学生を受講させ、学長自らも受講したいとのことであった。ズーンバヤンソム・ソム病院では、脱臼の整復や骨折の後療法に携わりこともあり、柔道整復術に理解を示されていた。

日々、保存的治療を行うバグ医師だけでなく、観血的療法を行う大医師たちにも広く柔道整復術を理解してもらうことで医療機関内での治療方針にも幅ができ、よりよい医療を提供できる可能性があると考えられる。今後、地方とのネットワークを密にし、多くの情報を収集した上で柔道整復術の必要性を示せるように活動していきたい。